

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	名古屋市立南天白中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	0	8	20
生徒数	73	83	83	0	239	

実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

自ら学ぶことのできる生徒の育成 —少人数指導における発展的・補足的な学習のための教材の工夫—
---

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

<少人数指導> 3学年数学（生徒の理解度に差がしやすい教科であるため） 3学年英語（生徒の習熟度に差がしやすい教科、学年であるため） 1学年国語（生徒の習熟度に差が出やすい教科、学年であるため） 2年選択教科、3年選択教科（生徒の興味・関心や習熟度の違いがあるため） <TT指導> 1・2学年数学、2学年英語（理解度に差が出やすい教科） 2・3学年理科、1・2学年技術・家庭科、（実験や実習で支援が必要な教科）
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 少人数指導における理解や習熟に応じた指導の在り方 研究の見通し（仮説） 学習形態や指導過程の工夫をすれば、学習意欲が向上し、問題解決能力を高めることができる。 研究の内容・方法 生徒の実態調査（学力・意識調査） 少人数やTTによる個に応じた指導方法の工夫 生徒の興味・関心を高めるための導入の工夫 問題解決能力を高めるための導入の工夫
--------	---

平成15年度	テーマ
	少人数指導における発展的・補足的な学習のための教材の工夫
	研究の見通し
	生徒の実態にあった発展的、補足的な学習教材を作成すれば一人ひとりに学ぶ意欲を持たせ、自主的に学ぶ力を育てることができる。
	研究内容・方法
	生徒の学力調査（つまずきの調査）
	習熟度別の教材作成
	習熟度別による授業実践（数学、英語を中心にした実践、選択教科による実践）

平成16年度	テーマ
	少人数指導における評価を生かした指導
	研究の見通し
	単元の指導の中で、生徒の自己評価を取り入れていけば、指導方法の見直しができ、生徒に自分のつまずきを発見させることができる。
	研究内容・方法
	各教科の評価規準の見直し、検討
	生徒の自己評価や相互評価によって、学習方法の見直し
	評価による各教科の指導方法の見直し

### (3) 研究体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会 校長・教頭・教務・習熟度別学習部会長・評価部会長・調査部会長</li> <li>・習熟度別学習部会（授業実践、指導方法・指導体制の研究、教材作成） 教務・国語科・数学科・英語科職員・教科主任</li> <li>・評価部会（評価規準の作成・検討、評価を生かした指導の研究） 教務・各教科主任</li> <li>・調査部会（学力調査、生徒の意識調査、他校の実践事例研究） 教頭・教務・教科主任（国語科・数学科・英語科）</li> </ul>
--

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意識調査より（習熟度別指導） 習熟度別のコースについて よい（46%）、どちらかといえばよい（36%） コースは自分に合っている（36%）、だいたい合っている（52%） 学習内容は理解しやすい（41%）、どちらかといえば理解しやすい（39%） 積極的に取り組めた（37%）、どちらかというに取り組めた（41%）</li> <li>・数学の少人数指導では、基礎コースの人数を10人程度にして実施したので、こ</li> </ul>
--

だんまりとした雰囲気の中で、失敗をおそれずに挙手したり、自分から進んで黒板に答えを書いたりするなど、前向きに学習に取り組むことができた。発展コースでも、積極的に挙手したり、問題の解き方を生徒同士で検討し合ったりするなど、意欲的に取り組むことができた。

- ・「ヒントカード」や既習事項の反復練習を行うことにより、つまずきが早期に解決でき、次の学習内容へ比較的スムーズに進めることができた。

## 2. 今後の課題

- ・ 少人数指導では、今年度から習熟度別の指導をしている。生徒へのアンケートから、基礎・発展・標準の3コース編制を望む声が挙がっている。
- ・ 習熟度別にコース分けをするとき、生徒への希望調査を行うが、教師の意図との違いが出てくる。生徒へどのような指導をしてコース調整をしていくか、また、保護者の理解をどう得ていくのかの検討が必要である。
- ・ 教師の打ち合せ時間をどう確保するか。進度の違いや教材の違い、生徒の様子などの情報交換など綿密な打合せが必要である。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・ 4月当初に教研式学力テスト(NRT)を実施(1学年国語、社会、算数、理科  
2・3学年国語、社会、数学、理科、英語)

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究集録の作成(年1回3月末)
- ・ ホームページの作成(<http://www.minamitenpaku-j.nagoya-c.ed.jp/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】       3学級以下       4～6学級  
 7～9学級       10～12学級  
 13～15学級       16学級以上

【指導体制】       少人数指導       T.Tによる指導  
 その他

【研究教科】       国語       社会       数学       理科  
 外国語       音楽       美術       技術・家庭  
 保健体育       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無